

2025年 新年の干支 「乙巳(きのとみ・いっし)」に思う

－ 復活や再生を繰り返しながら努力を重ね物事を安定させていく年!! － 価値創出を実現する「働き方改革」の実践を!!

株式会社 山西 あすなる会顧問
代表取締役会長 西垣 洋一

新年を迎え謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中はあすなる会の皆様には、格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

2025年の干支は、「乙巳」になります。「乙」は十干における2番目の文字で、陰陽五行説では「陰の木」に属します。自然界では、成長過程にある若木や柔軟でしなやかな草木を表し、新たな変化の始まりを意味します。「巳」は十二支の6番目の文字で脱皮をする蛇のイメージから「復活と再生」を連想させ、不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物と考えられています。又、「巳」という漢字は胎児の形に由来しており、「未来の種を育む」という意味もあります。これらを合わせて考えると、2025年の干支、「乙巳」は、復活や再生を繰り返しながらも、努力を重ね物事を安定させていく年とされています。

現在の世界情勢は、今なお続く各地の紛争、異常気象、インフレ等、世界中が揺れ動いており、混沌と混乱の時代を迎えています。先行きとしては二度目のトランプ政権の政策に左右される年と言え、インフレ沈静化に伴う利下げ継続により緩やかな成長トレンドが続くと予測される一方、トランプ氏が掲げる「米国第一」の政策において、追加関税を筆頭に世界経済に大きな影響を及ぼすとみられます。今後も為替が円安で動くとなると輸入物価の上昇を招き、日本のインフレを再加速させる懸念があるなど、日本を含めた世界全体の秩序が大きな転換期を迎えています。

翻って我々木材・住宅業界においては、円安等による住宅価格の高騰で、新設住宅着工数の停滞・減少が続いており、特に木材需要の柱となる持家住宅の長い低迷期が続いています。おそらく2024年度の総着工数は2009年度以来の70万戸台へと突入し、賃貸やマンションが失速すれば、80万戸を大きく割り込むことも考えられます。これに伴って、木材の需要も落ち込んでおり、ウッドショック時以降、供給力強化、在庫強化に取り組んできた木材業界は、今、需要の不足の長期化にあえぎ、人件費、電気代・物流費等のコスト増大等を価格転嫁できないことなどで再び苦境にたっています。そのため各建材メーカーが今後ますますの値上りをしていく反面、木材価格は上下乱高下しており、今後は需給バランスを考えながら徐々に適正価格へと値上げを進めていかなければなりません。そして、原価上昇+人件費増⇒価格転嫁(価値転嫁)⇒値上げ⇒売上増⇒人件費増といったインフレの好循環をいかに回すかが木材・住宅業界の今後の課題となります。

又、こうしたインフレ状況が続く中では、「賃金と物価」並びに「成長と分配」の好循環が必要であり、物価の影響を考慮した実質賃金の賃上げが必要となります。政府としても成長分野への投資促進、構造的賃上げに向けた環境整備、地方創生の推進など生産性向上につながる政策を重視する方針を示しており、我々業界としても「働き方改革」の更なる推進を進めていかなければなりません。只実態としては2024年4月から建設業・物流業にも時間外労働の上限規制が適用された中、残業時間の削減に苦慮する企業が増えています。あらゆる業種で「働き方改革」が進められる中、その推進状況には格差があり、労働環境の改善や生産性の向上など抜本的な「働き方改革」の推進は待ったなしです。「働き方改革」というと、どうしても長時間労働の抑制や休日の増加といった、労働時間の管理を考えがちですが、その本質は現在の業務の在り方を変え、短期間で高い価値を創出するための全社的な変革です。

2025年は「復活と再生の年」であり、木材・住宅業界としても本年の干支の「乙巳」が示すように業界を取り巻く環境変化(改正建築基準法:4号特例見直し・構造規制の合理化、改正建築物省エネ法:省エネ基準適合義務化等)に対応しながらも、業界の復権(復活)に向けた飛躍の年としたいものです。最後になりますが、本年の干支にちなんだ格言(右図参照)をご紹介させて頂き、皆様のご健康と事業発展を心から祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

2025年1月吉日

◆ 干支の智慧 - 乙巳(きのとみ・いっし) -

「本年の干支は、「乙巳」になります。陰陽五行では「乙」は陰の木で、「巳」は陰の火となり、木生火の相生という状態になります。相生とは相互助長のことで、木生火は木が燃えて火を生み出すことを言います。「乙巳」が意味するところは本文に書いてある通り、「復活や再生を繰り返しながら努力を重ね物事を安定させていく年」となります。「巳」は蛇を指しますが、脱皮を繰り返す蛇は転生の象徴とされ、古来より世界中で崇められてきました。令和6年は、新型コロナの影響がほぼなくなった一方で、国内外で政治・経済面で不安定さが露呈。環境面では異常気象が一層厳しさを増した一年でした。こうした状況は、令和7年も続く可能性が高いのですが、蛇の象徴である「生命力の強さ」にあやかりたいものです。思慮深く、忍耐力が強いのも蛇ならではの特徴です。冷静に、そして気丈に物事を考えて判断し、「蛇の道は蛇」。不安定な時代こそ、ブレないことが重要です。」



◆ 干支の格言 (「巳(蛇)」にちなんだ諺・経営語録)

・ 「蛇の足より人の足見よ」

蛇に足があるかどうかという、無益な議論をするのではなく、自分の足元のこと、つまり身近なことを考えるほうが大切という意味。無駄な事や意味のない事に時間を取られないことが大切。

・ 「蛇のめほども食うたが得」

蛇の目は体に対してとても小さいことから、小さな利益でも得たほうが得という意味。小さな利益の積み重ねが結果、大きな利益につながる。

・ 「長蛇を逸す」

大蛇のような大きな獲物を取り逃がすこと。大事な物・人・機会・利益などを惜しいところで取り逃がすことのたとえ。『山陽詩鈔』にある言葉。

・ 「鬼が住むか蛇が住むか」

人の心の底にどんな考えが潜んでいるのか、吉凶善悪の想像がつかないこと。前途の予想はつかないが、おそらく危険が潜んでいるらしいことのたとえ。

・ 「蛇に噛まれて打ち繩に怖じる」

蛇に一度噛まれたことのある者が、それにこりて蛇に似た腐った縄を見ただけで警戒して怖がること。前の失敗にこりて必要以上に無益な用心をすることのたとえ。

・ 「蛇に見込まれた蛙のよう」

蛇ににらまれた蛙のように、こわいもの前に出て身がすくんで動くこともできないたとえ。とても勝ち目のない相手や大きな威勢のある人物に会ったときなどのさまをいう。

・ 「竜頭蛇尾」

頭が竜のように立派で、尾が蛇のように貧弱であること。初めは盛んで終わりがふるわないたとえ。